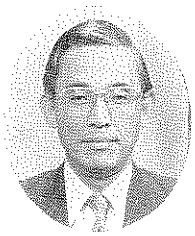
巻　頭　言

会長に就任して

——アット・ホームな情報交換と学会の役割——



宮　崎　栄　三

坂田亮会長のあとをうけて今期会長の任にあたることになりました。過去一年間，副会長として会長を補佐しながら，いわば会長見習いとして本会の運営について勉強させていただきました。しかし，今期はその責任の重大さを考えますと身が引締まる思いがいたします。幸いにして会誌の発行，その他の諸事業とも順調に運営されており，また年毎に充実してきております。また，学会運営の基盤となる財政面においても健全，かつ予算，支出とも年々拡大しております。これも会員各位のご支援ならびにこれまでの会長，各役員のご努力の賜物であります。同時に，表面科学が今日の高度技術社会においてきわめて重要な地位を占めつつある情況を反映しているためと思われます。

現在は情報化社会といわれ，必要とする情報をいかに早く入手するかに多くの人々が関心をもっております。表面科学に関する情報についても多くの情報が溢れております。各種のマスメディアをこのために利用することは比較的容易で，また安価であります。このような情況の下では，学会が果さなければならない役割，もっと厳しく申せば学会の存在意義について原点にもどって考える必要があろうかと思われます。

情報入手の原点はやはり人と人との会話によって得ることではないでしょうか。一方的に提供された情報がクールな情報入手方法としますと，前者はアットホームな入手方法といえましょう。学会の規模が一万人近い大世帯になりますと，会員同志の関係も稀薄になり，どうしても一方的な情報提供になりがちです。その点本学会では努力次第でアットホームな情報交換が可能と思われます。

そのためには，まず学会自身が会員にとって身近でアットホームと感じられることが重要であります。また，事務局を含めてそのような場を会員各位に提供する必要があります。たとえば本郷にある事務局に会員が気軽に立寄っていただけるようにすること，会誌に，会員の声を反映できるような欄をもうけることなどです。さらに，将来的には，表面科学に関するデータベースを学会が作製し，会員が会員ナンバーによってどこからでも自由にアクセスして利用できる体勢を整備することも必要であります。これはかなり学会にとって負担のかかる仕事かもしれませんが，今後の表面科学のレベルアップに役立つと同時に本会の一層の発展につながるものと思われます。会員各位の一層のご支援をお願いする次第であります。

（東京工業大学理学部）